

経済日誌2007年4月

1. モロッコ国内経済

(1) 国際収支

① 経常収支(2006 年)¹

- ・163 億 DH(約 2200 億円)の黒字(経常黒字は 6 年連続)
 - 輸出:1117 億 DH(約 1.5 兆円)(前年比 11%増)
 - 輸入:2070 億 DH(約 2.9 兆円)(前年比 11%増)

② 外国からの投資(2006 年)²

- ・293 億 DH(約 4100 億円)(前年比 3%増)
 - 工業分野の投資額は、前年比 258%増
 - 不動産・観光分野の投資額は、前年比 124%増
 - 通信分野の投資額は、前年比 85%減³

(2) 財政

① 税収(2006 年)⁴

- ・税収総額は 1135 億 DH(約 1.6 兆円)(前年比 13%増)
 - 法人税収入:248 億 DH(前年比 28%増)
 - 所得税収入:239 億 DH(前年比 5%増)
 - 付加価値税収入:274 億 DH(前年比 20%増)

② 財政赤字(2006 年)⁵

- ・97 億 DH(約 1400 億円)の赤字(GDP 比 1.7%)

(3) 公共事業等

① アガディール地区観光開発プログラム2015⁶

- ・モロッコ政府が約 280 億円、地方自治体が約 80 億円、プライベートセクターが約 50 億円を投資
- ・同種のプログラムは、カサブランカ、フェズにおいても実施されている。

② マラケシュ～セタット間高速道路の開通⁷

¹ 為替局ホームページ

² 為替局ホームページ

³ 2005 年は、特殊要因として政府保有モロッコテレコム株売却があった(2006 年は、前記特殊要因がなくなり、通信分野における投資額は急減。

⁴ 財政民営化省ホームページ

⁵ 統計庁からのヒアリング

- ・マラケシュ～セタット間(145Km)の区間
- ・事業費約 460 億円(アラブ経済社会開発基金が約 120 億円、クウェート基金が約 50 億円、欧州投資銀行が約 270 億円を融資)
- ・これまでに 784Km の高速道路が開通(現在、640Km を建設中)
- ・一般道については、6 万 Km が開通している(うち、3 万 Km は舗装道路)

③タンジェ博覧会(2012 年万博)の準備(タンジェ市は 2012 年万博開催地に立候補している)⁸

- ・準備予算は約 750 億円(テーマパビリオン建設のために約 70 億円、宿泊施設建設のために約 85 億円、コンベンションセンター建設のために約 14 億円、「夕日」を象徴するモニュメント建設のために約 35 億円、その他水族館の建設等)
- ・来場者数 600 万人を見込む(スペイン、ポルトガル、イタリアからの来場 100 万人、海外在住モロッコ人の来場 60 万人等)
- ・万博からの収入に関しては、直接収入約 170 億円、開催後の不動産売却による収入等約 900 億円を見込む。

④軍人向け住居の建築⁹

- ・8 万戸の住居の建築を決定(3 万戸は賃貸用、5 万戸は購入用)
- ・投資総額は約 2200 億円

(4)産業

①2007 年第 1 四半期製造業動向アンケート調査の結果¹⁰

(a)現状

- ・好調(57%)－不調(5%)＝52%
- ・雇用拡大－雇用縮小＝9% (金属・機械、電気・電子分野の雇用拡大が目立つ)
- ・投資拡大－投資縮小＝32%

(b)将来

- ・好調－不調＝55% (全分野で 40%を上回る)
(特に、電気・電子分野は 78%)
- ・雇用拡大－雇用縮小＝11%
- ・投資拡大－投資縮小＝49% (電気・電子分野の投資拡大見込みが目立つ)

②モロッコ政府からの補助金(水不足からの家畜保護対策)¹¹

- ・1 月から実施された家畜保護緊急対策(飼料、水の供給等)に約 110 億円が使用された。

⁶ エコノマップ(4 月 9 日)

⁷ エコノマップ(4 月 17 日)

⁸ エコノマップ(4 月 23 日)

⁹ エコノマップ(4 月 30 日)

¹⁰ モロッコ中央銀行ホームページ

¹¹ エコノマップ(4 月 3 日)

③「Atlantic de Nimes」社の新工場落成式¹²

- ・投資総額約 50 億円
- ・サレの Bouknadal 地区にジーンズ工場を建設、雇用数 1000 人
- ・売上の 75%は米国向け輸出、25%はEU向け輸出

④工芸発展に向けた 2015 年ビジョン¹³

- ・観光・工芸・社会経済省公表のビジョン
- ・工芸品の生産額を 240 億 DH(約 3300 億円)に高める目標(2006 年時点で 100 億 DH)。同分野の輸出額を 70 億 DH に高める目標。

⑤農業分野におけるPPP(公－私協力)¹⁴

- ・第一次協力は 41837ha を対象に実施され、提案のあった 205 のプロジェクトのうち 164 が採用された。
- ・第二次協力の対象は 38731ha。116 のプロジェクトが提案されている。現在入札手続中。
- ・農業分野 PPP の管理は、Sodea-Sogeta が行っている。

⑥作付け作物の転換に関する農業大臣の発言¹⁵

- ・モロッコは、灌漑が難しい地域等において穀物の作付け面積を 200 万 ha 減少させる。(それにより、1ha あたりの収穫高を 2.5～3 トンに上昇させる)。
- ・上記地域等においては、代わりにオリーブ、イチゴマメ、アルガン等のより少ない水で対応可能な作物に転換を目指す。

⑦YNNA Holdingのアガディールにおける投資¹⁶

- ・大型スーパーAswak Assalam アガディール店が開店(投資額約 28 億円)
- ・ホテル高等学院の建設(2008 年に開校予定)(投資額約 28 億円)
- ・学生寮(キャパシティ:1800 人)の建設(投資額約 8 億円)

(5)その他

①モロッコ王立航空の電子チケット¹⁷

- ・2007 年末までに電子チケット発行対象を全路線に拡大(現在は 85%)(紙チケットの廃止を狙う)

¹² エコノマップ(4 月 16 日)

¹³ エコノマップ(4 月 19 日)

¹⁴ エコノマップ(4 月 23 日)

¹⁵ エコノマップ(4 月 24 日)

¹⁶ エコノマップ(4 月 23 日)

¹⁷ エコノマップ(4 月 3 日)

②高速道路料金収入(2006 年)(TVAを除く)¹⁸

- ・料金収入は約 105 億円(前年比 22%増)、経費支出は約 85 億円(前年比 25%増)
- ・交通量は前年比 11%増
- ・高速道路公団(ADM)による、2006 年投資額は約 500 億円。投資額累計は約 2100 億円。

③モロッコ投資ガイド(Q&A101)の公表

- ・投資局ホームページ:www.invest.gov.ma/にて公表
- ・投資局ホームページの他のコンテンツは、6 月 1 日以降閲覧可能となる予定。

④エッサウイラのAmogdoul風力発電所の落成式¹⁹

- ・投資総額約 100 億円(独 KfW からの融資)、スペイン系 Gamesa 社が工事受注
- ・出力 60MW
- ・CO₂削減量:15.6 万トン/年
- ・モロッコ電力公社は 2012 年に向けて「1000MW の風力発電イニシアティブ」を実施
Tarfaya (200MW)、Touahar (100MW)に加え、Tiniguir (Dakhala)、Tiskrad et Foun Al Oued (Laayoune)、Moulay Bouzerktoun (Essaouira)、Sendouk et Nouinouich (Tanger)、Midelt が候補地に挙げられている。Tétouan では既稼働の風力発電所が2カ所存在。
- ・2012 年、2020 年までに電力生産量に占める風力発電の割合を、それぞれ 10%、15%まで高めたい(エネルギー・鉱山大臣の発言)

⑤太陽温熱パネルの利用状況²⁰

- ・2006 年時点で 16 万m²(2000 年時点では 4.5 万m²)
- ・2012 年に向けて 40 万m²まで増加させる目標(PROMASOLプログラム)

⑥モロッコの地方電化率²¹

- ・2006 年末時点での電化率は 88%

⑦Méditel社がモバイル用ADSLサービスを開始²²

- ・USB モデム又は PCMCIA カードを使用。最大 3.5MB/秒。
- ・当初、カサブランカ、ラバト、マラケシュでサービスを開始。外国でも使用可。
- ・料金は、599DH/月

¹⁸ エコノマップ(4 月 3 日)

¹⁹ エコノマップ(4 月 16,20 日)

²⁰ エコノマップ(4 月 20 日)

²¹ エコノマップ(4 月 19 日)

²² エコノマップ(4 月 19 日)

⑧第2回国際農業見本市の開催²³

- ・4月19日～24日の期間開催された
- ・820の展示ブース(20か国、127の外国企業も参加)
- ・来場者数は約55万人

⑨フェズ・ブルメン地区投資センターがECビジネス・イノベーションセンターの称号を取得²⁴

- ・ヨーロッパ・ビジネスイノベーションネットワーク(EBN:160のメンバー都市)のメンバーとして中小企業の支援を実施することとなる。

⑩期間限定でミルク製品の関税を免除することを検討(農業・農村開発・漁業大臣の発言)²⁵

- ・雨不足に起因した飼料不足に伴い国内ミルク生産が15%程度低下
- ・粉ミルクについては年末まで、ミルクについてはラマダン期間中関税免除を検討

⑪観光ビジョン 2020²⁶

- ・モハメッド6世国王が観光省等に対し、2010年までにビジョンを策定することを要請
- ・ビジョンは、手工業、文化、農業、天然資源といった他の経済・社会部門との連携をより緊密にすることを目指したもの

²³ エコノマツプ(4月27日), Journal l'Economiste(4月25日)

²⁴ エコノマツプ(4月27日)

²⁵ エコノマツプ(4月27日)

²⁶ エコノマツプ(4月30日)

2. 諸外国等の動向

(1) 外国政府の動向

① 第1回人間開発に係るアフリカ会議の開催²⁷

- ・4月6,7日ラバトにて開催(モロッコ主催、UNDPが支援)
- ・アフリカ諸国から閣僚級が参加(45か国が参加)

② アガディール協定の発効²⁸

- ・2007年4月1日付けで、アガディール協定(モロッコ、エジプト、チュニジア、ヨルダン間の自由貿易協定)がモロッコにおいて発効
- ・(参考)モロッコの貿易総額に占める、対アガディール協定批准国の割合は約1.4%(2006年)

③ 第9回モロッコ・ポルトガルハイレベル会合の開催²⁹

複数の協定に署名

- ・投資保護促進協定
- ・中小企業庁間の協力
- ・Taourirt-Nador間鉄道敷設のための融資協定(約120億円)
- ・海上運送分野での協力協定(港湾業務)
- ・度量衡に関する協力
- ・科学技術分野での協力協定(地中海道路の土木工事管理、トンネルに係る技術・安全の分野等)
- ・CDM分野での協力
- ・通信庁間の協力
- ・文化、容疑者引き渡し、民間航空輸送、道路交通分野での協力

④ UNEO(国連環境機構)フレンズ会合の開催³⁰

- ・4月12,13日アガディールにて開催(モロッコ主催)
- ・UNEP(国連環境計画)の権限を強化してUNEOに改組することを主張するグループ(仏を中心とする欧州勢、アフリカ諸国等50数か国からなるグループ)の会合
- ・会議後の議長報告(参加国がコミットしたものではない)で、UNEOの権限、組織的側面について大枠が示された。

⑤ 第6回モロッコ・クウェートハイレベル会合の開催³¹

複数の協定に署名

²⁷ エコノマップ(4月9日)

²⁸ La vie éco(4月6日)

²⁹ エコノマップ(4月18日)

³⁰ モロッコ政府関係者からのヒアリング、及び、会議後の議長報告からの情報

³¹ エコノマップ(4月27日)

- ・税関分野、青年・スポーツ分野での協力協定
- ・石油・天然ガス開発分野での協力に係る覚書

⑥モロッコ・セネガル協力協定³²

- ・灌漑開発、牧畜、環境分野での協力協定を締結

⑦モロッコ・エジプト間の協力³³

- ・漁業分野(養殖等)における協力強化に合意

(1)外国企業の動向

①ア首連「Reem Investments」社によるマラケシュへの投資³⁴

- ・モロッコに「Reem Maroc」社を創設
- ・不動産・観光プロジェクト「Atlas Garden」に対する投資(総額約 1200 億円)
- ・マラケシュ中心部から南へ 10Km の場所に位置(開発対象:200ha)
- ・ゴルフ場建設、3つのホテル建設(2500 床)、ショッピングセンター建設、工芸品市場の建設等

②モロッコテレコム投資(アシラ市(モロッコ)ーマルセイユ市(仏)間海底光ファイバー敷設)³⁵

- ・投資総額約 40 億円
- ・敷設距離:1634km
- ・仏系「Alcatel Submarine Network 社」が工事を受注
- ・目的:モロッコにおけるオフショアリング事業の拡大等に対応するため。

③スペイン系銀行がモロッコ貿易銀行(BMCE)株式の 5%を取得³⁶

- ・約 200 億円で CAM(Caisse d'Epargne de la Méditerranée)が取得(モロッコ株式市場を通して取得)。
- ・CAM はスペイン4番手の銀行。年間利益は約 500 億円(2006 年)。

(2)経済協力

①日本による協力(借款)³⁷

- ・JBIC が次の3つのプロジェクト(総額約 140 億円)の借款契約に署名
(a)河川流域保全事業(借主はモロッコ政府)

³² エコノマップ (4 月 24 日)

³³ エコノマップ (4 月 27 日)

³⁴ エコノマップ (4 月 3 日)

³⁵ エコノマップ (4 月 16 日)

³⁶ エコノマップ (4 月 18 日)

³⁷ エコノマップ (4 月 3 日)

Allal El Fassi(セフロ、ブルメン)及び Oued El Maleh(河口はモハメディア)のダム上流の流域整備(植林、砂防等)事業。洪水予防効果も期待できる。

(b)都市環境改善事業(借主はアル・オムラーン国土整備公社)

シディタイビ、ケニトラ市ウルドムバレクの非衛生住宅街の基礎インフラ(上下水道、電化、道路)整備。

(c)下水道整備事業(Ⅱ)(借主は、国営水道公社)

マラケシュ近郊の4地方都市における下水道整備事業

・日本からモロッコへの円借款は、累計約 1980 億円に達する。

②MCCプログラム(米国)への要請(モロッコから)³⁸

(a)農業分野

・小規模灌漑設備のリハビリ、果樹の植林(30 万 ha)等

(b)漁業分野

・漁業市場(10 カ所)の創設、巡回販売設備の整備(1300 設備)等

(c)手工芸分野

・フェズ、マラケシュ等の歴史的サイトの整備、工芸集落の創設等

(d)マイクロクレジット支援

③モロッコ電力公社総裁のガーナ、シエラレオーネ訪問³⁹

・技術協力の可能性を模索

④これまでの高速道路建設(建設中のものも含め約 1400Km)に係る事業費(調達内訳)⁴⁰

事業総額約 5000 億円

・自己資金:約 1100 億円

・アラブ経済社会開発基金による融資:約 1300 億円

・欧州投資銀行による融資:約 950 億円

・クウェート基金による融資:約 550 億円

・イスラム開発銀行による融資:約 400 億円

・JBICによる融資:約 350 億円

・アフリカ開発銀行による融資:約 200 億円

・その他(イタリア、アブダビ基金、OPEC 基金、Credit Acheteur)からの融資:約 200 億円

⑤世界環境基金からの無償資金協力⁴¹

³⁸ エコノマップ (4 月 9 日)

³⁹ エコノマップ (4 月 10 日)

⁴⁰ エコノマップ (4 月 17 日)

⁴¹ エコノマップ (4 月 23 日)

- ウジダ市南方 86Km に位置する Aïn Béni Mathar における、太陽光・天然ガス複合発電所 (centrale thermo solaire) に対する約 50 億円の無償資金協力。その他、アフリカ開発銀行からの融資、自己資金により資金調達。
- 発電所の出力は 472MW。2009 年第1四半期に稼働予定